ひみのふくし

1
2025 Jan
No.437

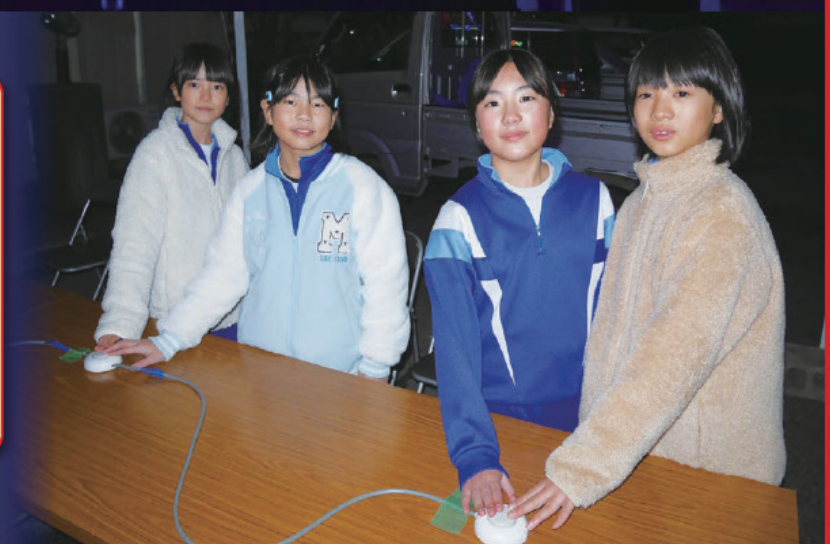
企画・発行
社会福祉法人 氷見市社会福祉協議会
〒935-0025 富山県氷見市鞍川975
TEL 0766-74-8407
http://www.himi-shakyo.jp

この広報誌は皆さんからの会費、共同募金の助成金により発行されています。

復興の願いを光に込めて

CONTENTS

◆震災から1年。地域福祉はどう活かされたか、どう活かされるのか …2〜3ページ
◆「氷見市&羽咋市ボランティア活動者交流会 in 羽咋」を開催しました
◆帰省されているみなさま「困ったな…どこに相談したらいいのか…」そんな時はふくし相談サポートセンターへ
◆各種お知らせ …4ページ



どう活かされるのか

令和6年能登半島地震から1年が経過しました。この震災で被害を受けた全ての方に心よりお見舞い申し上げます。本特集では、震災から今日までを振り返り、日頃からの地域福祉活動がどのように活かされたのか、震災を経て、地域福祉活動がどのように変化し、推進されていくのかをまとめました。

災害ボランティア・支えあいセンターでわかった地域の力

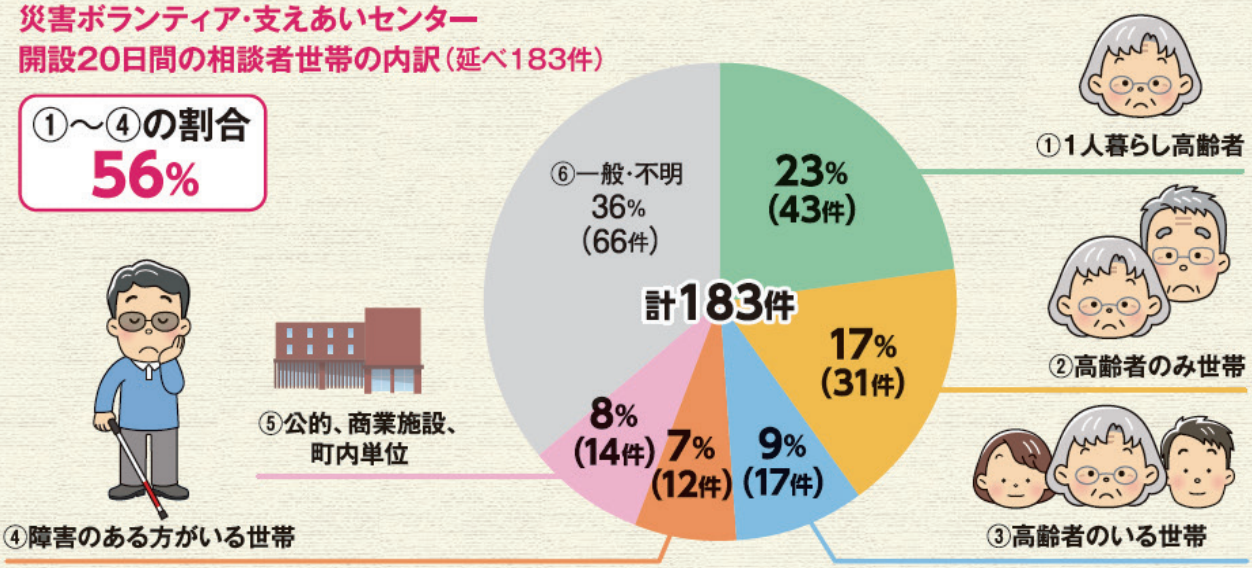
市社協では、被災後の1月5日から氷見市災害ボランティア・支えあいセンター（以下、「災害ボラセン」）を開設し、被災された方の相談を受けています。開設から20日間の相談者内訳をみると、高齢者や障害のある方からの相談が5割を超えています。

災害時、高齢者や障害のある方等は「災害弱者」になりやすく、必要な情報を得たり困っていることを周囲に発信したりすることが困難で支援につながりにくくなる危険があります。

しかし、氷見市では日頃からのご近所づきあいにより、被災者の困りごとを近所の方が把握し、区長や民生委員、ケアネット活動の協力者等を通して早期に災害ボラセンとつながることができました。

災害ボランティア・支えあいセンター
開設20日間の相談者世帯の内訳（延べ183件）

①～④の割合
56%



地域福祉活動は活かされ、活きていく

発災後の地域の動きや災害ボラセンへの相談状況を振り返ると、震災前から行ってきたケアネット活動や要支援者の把握、居場所づくり等、日頃の地域福祉活動が住民同士のつながりを強くし、発災後には安否確認や生活支援、地域と専門職による早期の情報共有等に活かされたのではないでしょうか。

また、震災以降、各地区社協が中心となって取り組まれた、被災された方に寄り添った訪問活動や集いの場づくり、災害時の振り返りなどの活動が、今後の地域福祉活動の土台となり、「誰もが安心して暮らせる地域」の実現に活きていくことが期待されています。

氷見市能登半島地震振り返りフォーラムを開催します

日　時 令和7年1月25日（土） 13:00～17:00
内　容 氷見市社会福祉協議会会長表彰 感謝状 贈呈式
フォーラム「能登半島地震発生から今日を振り返る」
①地域や専門職、行政の復旧・復興に向けた取り組み報告
②災害対応の振り返りと氷見市が目指す福祉と防災についてのシンポジウム
場　所 氷見市芸術文化館（氷見市幸町31-9）
参加費 氷見市民の方…無料
市外の方……1,000円（資料代）
対　象 どなたでも
申し込み 来館・電話（以下まで）

Information 地域福祉・ボランティア推進課
〒935-0011 氷見市中央町12-21（氷見市いきいき元気館内） TEL:74-1800 FAX:74-8055
受付時間 8:30～22:00（年末年始を除く） メール：himi-volunteer@himi-shakyo.jp

震災から1年。
地域福祉はどう活かされたか、

大地震だ！ その時リーダーは？

日頃から地域福祉活動を実践している地域のリーダーに、発災直後の活動を振り返っていただきました。

住民の安否確認

加納地区民生委員児童委員協議会

澤武 俊一 会長

安否確認を兼ねて断水の被害を受けた住民のお宅を訪問し、水や食料などの物資を配布しました。「いのちのバトン」の情報や民生委員の訪問活動のおかげで、気になる方の把握がスムーズにできました。

地域内の連携

十二町持続可能な地域づくり推進協議会

石上 隆宏 会長

発災時は各区長へ連絡し、地区内の関係者が連携して住民の安否確認をするように周知しました。また、地域防災計画の策定を通して、日頃から住民台帳の整備や災害時の体制を地区全体で検討していたため、発災後にやるべきことがイメージできて、迅速に行動できました。

安心できる居場所

久目地区社会福祉協議会

上野 達也 会長

誰もが気軽に立ち寄れる居場所である「のんびりーのくめ」を、被災して不安な気持ちの皆さんに開放しました。家が傾いて不安な方や車中泊をしていた住民の拠り所としても機能し、平時から集いの場を実施していたことが、災害時にも活かすことができたと思います。

今だからこそはじめる新しい地域福祉活動

氷見市社会福祉協議会（以下、「市社協」）では、市内外からご寄付いただいた「支援金」を活用し、「くらしをささえる地区社協応援助成事業」を実施しています。これを活用し、各地区社会福祉協議会（以下、「地区社協」）では、被災された方への支援や地域の復興に向けた取り組みを実施しています。

被災された方を元気にする活動

稲積地区

久しぶりに会えて嬉しいね！

被災された方に少しでも元気になっていただけるように、2つの活動を実施しました。「震災復興歌謡ショー」では、手品や踊り、歌など、演芸の力で地域の皆さんを元気づけました。また、「食事会」では、地区外に避難された方も参加し、久しぶりの再会と交流を楽しみました。

宇波地区

コミュニケーション講座を開催

震災以降、世代を問わない地域の集いの場をつくるために地域食堂「なだうら食堂」を開設しました。ご飯を食べるだけではなく、来場した地域住民の交流やeスポーツ大会、研修会等も実施しています。

困りごとを把握する活動

東地区

顔を合わせて近況を確認

民生委員や地域福祉活動サポーターがお菓子を持って高齢者宅を訪問しました。全壊や半壊の認定を受けた家で今も生活している方が多いため、被災による困りごとや不安を聞き取り、必要に応じて行政や専門職と情報を共有しています。

女良地区

笑顔もお届け

これまで以上に顔の見える関係作りが必要だと考え、民生委員と日頃の見守り活動に協力しているサポーターが地区内の70歳以上の方がいる230世帯にお菓子を持って訪問しました。一人ひとりから丁寧にお話を聴き、住民同士のつながりを深めています。

氷見市＆羽咋市 ボランティア活動者交流会 in 羽咋

意見交換の様子

令和6年10月28日（月）に羽咋市市民活動支援センターにて氷見市と羽咋市のボランティア活動者同士の交流会を開催しました。2回目となる今回は氷見市から15名、羽咋市から23名が参加しました。

交流を兼ねて行われた意見交換では、互いの活動のやりがいや苦労、担い手確保のための工夫などを話し合いました。また、能登半島地震を受け、ボランティアとしてどのような動きができたのか、今後、ボランティアに求められる姿勢などを共有しました。

参加者からは、「2回目の開催で、さらに交流を深めることができた」「今後の活動を充実させ、1年後に成果を伝えたい」「同じ活動をしている団体同士でコラボしてみたい」などの声が聞かれました。交流会が活動者のやる気を高めるだけではなく、両市の活動者同士の新たな活動にもつながることも期待されています。

帰省されているみなさま

困ったな… どこに相談したらいいのか…

そんな時はふくし相談サポートセンターへ

ご実家やご家族のこんな困りごとはありませんか?

- 最近ちょっと元気がない
- 病気があり仕事や生活が不安
- ひきこもりの家族のことが心配

ふくし相談サポートセンターは、市と氷見市社会福祉協議会との官民協働で「生活する上でのさまざまな困りごと」を伺い、支援を行っています。

どんな内容でもまずはご相談ください。
必要に応じて相談内容に合わせ、関係機関と一緒にサポートします。

相談無料

Information ふくし相談サポートセンター

〒935-8686 氷見市鞍川1060（氷見市役所1階） TEL：0766-30-2937 FAX：0766-30-2913 受付時間 平日8:30～17:15

ご寄付をありがとうございます

令和6年11月1日～30日受入分〈敬称略・受付順〉

紙上を借りて厚くお礼申し上げます。

11月14日（木）、氷見伏木信用金庫より、長坂棚田オーナー田で収穫された新米約20kgをご寄付いただきました。氷見市社会福祉協議会が実施する、学習・生活支援事業「D.Dスマイル塾」で活用させていただきます。

贈呈式の様子

地域福祉の推進に活用させていただきます

【能登半島地震緊急支援募金】

●募金箱 11月　3,705円

被災者支援に活用させていただきます

今月の表紙レビュー

上庄地区　イルミネーション点灯式

令和2年から始まったイルミネーションは、毎年モチーフが増え賑やかになっています。今年は地区在住の表清仁さんが描いたデザイン画を元に、手作業で形作られました。越田さん（上庄自治振興会長）は、「家路につく際、地元を感じられるデザインのイルミネーションを見て、『今日も無事に帰って来られたなあ』とほっとしてもらえると嬉しいですね」と笑顔で語ります。